

## OUR TEAM

新人戦市予選会で、陸上部は男子8種目延べ10名が、女子3種目延べ3名が県大会出場を決めました。剣道男子団体と女子バスケットボールは優勝し、男子ソフトテニスの個人戦で「牧・小池ペア」がBEST4に入り、それぞれ県大会出場を決めています。剣道男子団体と女子バスケットは優勝決定の瞬間に立ち会うことができました。どちらの種目も、準決勝から決勝まで手に汗握る大接戦でした。その中で勝ち切ることができたのは、日ごろの練習の成果です。よく頑張りました。保護者の皆さまの応援もチームの大きな力となりました。感謝です。この新人戦で頑張ったのは、県大会を決めた部・選手だけではありません。勝敗に関わらず、最後の最後まで全力でプレーする姿に心を動かされました。

さくら運動公園野球場で行われた野球部の1回戦のことです。1回の裏、対戦校に得点を重ねられ、最終的には大差をつけられての敗退でした。それでも選手は最後まで全力のプレーを続けました。試合後には、「練習した意味があるのかなあ」と涙している生徒もいたと聞いています。この涙は、練習してきたことを試合で出し切れなかった悔しさの現れだと思います。気持ちは十分わかる一方で、「練習した意味」は確実にあったのだとも思います。練習したからこそ、感じられた悔しさであったはずです。練習を頑張っていなければ、悔しさも形だけです。野球部は放課後、どの部よりも早くグラウンドに出てきます。そして、キャプテンの斎藤くんを中心に、グラウンド一杯に響き渡る声を出し練習に取り組んでいます。その成果はいつか必ず現れます。新人戦は終わりましたが、反撃はここからです。野球部だけでなく全ての部にとって、戦いは始まったばかりです。

3年前、ラグビーW杯が熊谷でも開催され、当時小学生だった皆さんもスタジアムに行き、観戦する機会がありました。この大会で日本代表は史上初めてベスト8に進出しました。その時のチームスローガンは「ONE TEAM」です。そして、1年後に迫ったフランスでのW杯に向けて始動した日本代表のチームスローガンは、そこからさらに進化した「OUR TEAM」なのだと思います。直訳すれば「私たちのチーム」です。日本代表のキャプテン・坂手選手(熊谷拠点のワイルドナイツ所属)は、このスローガンに込めた思いを「全員が責任をもってチーム内の役割をやり続ければ、自分たちのチームになる」と説明していました。また、「チームへのプライドと愛情をもって行動することが大事だ」とも述べています。先ほどまで、お話していた部活動にこの言葉を当てはめてみてください。部活動にも一人一人が果たす役割があるはずです。学級の中でも同じです。一人一人が役割を全うすることで、「自分たちのクラス」「私たちのクラス」と胸を張ることができるのだと思います。各学級で練習が本格化する合唱はその絶好の機会でもあります。

「ONE TEAM」も強いですが、「OUR TEAM」はもっと強いです。

熊谷市立三尻中学校長 田沼良宣